



Annual  
Activity  
Report

# 2014

## 2014 年度 年次報告書



ひとり一人に未来をつくる力がある

認定NPO法人 テラ・ルネッサンス



## 目次

- P.04 2015年度のご挨拶 スタッフ相関図
- P.06 活動地域・活動内容
- P.08 団体概要・活動理念
- P.10 特集 「支援」に大事な2つの視点
- P.12 國際協力事業 アジア
- P.18 國際協力事業 アフリカ
- P.24 東日本大震災における被災者支援  
「ともつな基金」事業 日本
- P.28 啓発・人財育成事業 日本
- P.34 会計報告

わたしたち、テラ・ルネッサンスは、  
「レジリエンス」を大切にしています。

「レジリエンス」とは、困難な状況に直面しても、自らに内在する多様なチカラと  
周囲との関係性の中で、それを乗り越えていく適応能力のことです。

過酷な紛争の中で大きな傷を抱えていたとしても、  
それぞれ（個人やコミュニティ）には、コンクリートの地面を突き抜けて  
成長する新芽のように、しなやかで力強いチカラが内在していると考えています。

植物を育む水と太陽のような存在が、周囲にあれば、  
誰もがそのチカラを発揮することが可能だと考えています。

大切なことは、一人ひとり、そして、地域それぞれに多様な発展の道筋があるということです。

外から援助する側の役割は、その自然の成長（多様な発展プロセス）を  
自らが阻害していないかを常に自問しながら、対象とする国や地域、  
人びとに内在するチカラが發揮できるような土壤環境を整えていくことだと考えています。

## 課題から逃げることなく、果敢に挑戦する

2014年度も、皆様から活動へのあたたかなご理解とご支援をいただき、本当にありがとうございました。「すべての生命が安心して生活できる社会(世界平和)の実現」を目指して、テラ・ルネッサンスは、国内外でチャレンジ(取り組み)を積み重ねています。その過程で、さまざまな課題に遭遇します。それらの課題を解決していくことによって、テラ・ルネッサンスは、さらに、しなやかで、果敢に、課題に取り組む「強さ」を育むことができるのです。一つ一つの課題解決に、職員、インターン、そして支援者の皆さんとともに、真摯に取り組んでいき、真に「世界平和の実現」へ貢献できる組織に成長していく。そんなプロセスを、大切にしていきたいと考えています。



創設者・理事  
鬼丸昌也

### カンボジア事務所



プロジェクト・コーディネーター  
クン・チャイ



建設担当  
pun・トゥン



会計担当  
ヨート・イエト



カンボジア事務所 所長  
江角泰



ドライバー  
ヴァン・ソッピア



裁縫技術指導員  
サムリット・ラウ



事務所警備員  
ホウト・ヒアト

※掲載しているスタッフ相  
関図は、2015年6月時点の  
ものです。また、2015年度  
よりブルンジ共和国におい  
て活動拠点となる事務所を  
設立し、ブルンジ事業を本格  
稼働させてまいります。

### 岩手事務所



大槌刺し子プロジェクト  
マネージャー  
内野恵美



大槌刺し子プロジェクト  
スタッフ  
伊藤いずみ



岩手事務所 所長  
鈴鹿達二郎



販売管理担当  
佐々木静江



会計担当  
黒澤かおり



生産管理担当  
佐々木加奈子

### 本部事務局(京都)



啓発・人財育成 マネージャー  
栗田佳典



総務・労務担当  
牧野由起子



広報・ファンデイジング マネージャー  
小田起世和



財務・会計担当  
中山麻衣子



理事長  
海外支援事業部長  
小川真吾



理事・物販担当  
吉田真衣

### コンゴ事務所



ロジスティシャン  
チルフラ・バヒンデウワ



事業調整員  
ナメガベ・ビチュラ



コンゴ事務所 所長  
テオフィー・チバンジ



ドライバー  
マソンガ・チズング・  
ジョージ



事業調整員  
マバタノ・ルワガマ  
ジョージ

### ウガンダ事務所



ウガンダ事務所 所長  
(プロジェクトマネージャー)  
オテマ・ジミー



能力向上支援担当  
(木工大工訓練講師)  
オドン・ベンソン



能力向上支援担当  
(服飾デザイン訓練講師)  
アチャーヨ・ボスコ



心理社会支援担当  
オジャラ・サンダー



セキュリティ担当  
オチャカ・ジャコブ



BHN支援担当  
アティム・クリスティーン



セキュリティ担当  
オンウォヤ・チャールズ



ドライバー  
オポカ・パトリック



BHN支援担当  
オチャカ・グレース



能力向上支援担当  
(服飾デザイン訓練講師)  
アニエコ・ビッキー



プロジェクトオフィサー  
オケロ・リチャード



能力向上支援担当  
(洋裁訓練講師)  
オコト・ジョセフ



BHN支援担当  
アデウバンゴ・マティナ

### インターンシップ (研修生)



延岡由規



岡田実沙季



吉井翔子



武田麻優



土岐まなみ



杉本真希



北詩織



李ダレ



清水香那



内藤千賀  
徳永かのこ



新谷彩佳  
川島綾香



依田匡史  
辻井優利



迫那津美  
米田愛恵



### 1. コンゴ民主共和国

- コンゴ東部地域における元子ども兵及び紛争被害者支援プロジェクト



### 2. ウガンダ共和国

- ウガンダ北部における元子ども兵社会復帰支援プロジェクト
- 不法小型武器問題啓発プロジェクト



### 3. ブルンジ共和国

- ブルンジにおける紛争被害者に対するレジリエンス促進プロジェクト



### 4. ラオス人民民主共和国

- ラオス不発弾撤去活動支援プロジェクト
- 不発弾汚染地域学校建設プロジェクト



### 5. カンボジア王国

- 地雷埋設地域村落開発支援プロジェクト
- 地雷埋設地域教育支援プロジェクト
- 地雷撤去支援プロジェクト



### 6. 日本

- 啓発活動(講演、ワークショップ、スタディーツアー、パネル展示など)
- 政策提言(武器貿易条約締結に向けたキャンペーン及び政策提言活動など)
- 東日本大震災復興支援活動(ともつな基金／大槌復興刺し子プロジェクト)



団体概要	
正式名称	特定非営利活動法人テラ・ルネッサンス
理事長	小川真吾
設立年	2001年(法人格取得2005年、2014年認定NPO法人となる)
活動対象国	カンボジア王国、ラオス人民民主共和国、ウガンダ共和国、コンゴ民主共和国、ブルンジ共和国、日本
海外・国内事務所	カンボジア事務所(カンボジア王国バッタンバン州)、ウガンダ事務所(ウガンダ共和国グル市) コンゴ事務所(コンゴ民主共和国南キブ州)、本部事務局(京都)、岩手事務所
海外における 主な協力団体	<ul style="list-style-type: none"> <li>● ウガンダ Gulu Support the Organization(GUSCO)、Gulu NGO Forum</li> <li>● ラオス MAG-Lao、UXO-Lao</li> <li>● カンボジア Mine Advisory Group(MAG)、Cambodia Trust</li> <li>● ブルンジ CEDAC</li> </ul>

役員・体制	
理事	小川真吾、鬼丸昌也、中井隆栄、岡田則子、新居真衣
監事	鯉田勝紀(公認会計士・税理士／鯉田会計事務所)
顧問	小田全宏(特定非営利活動法人日本政策フロンティア理事長)
スタッフ	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 本部事務局(京都) 有給専従職員 5名、有給非専従職員 1名、インターン 20名</li> <li>● 岩手事務所 有給専従職員 3名、有給非専従職員 3名</li> <li>● ウガンダ事務所 ローカルスタッフ 13名</li> <li>● カンボジア事務所 日本人有給職員 1名、ローカルスタッフ 6名</li> <li>● コンゴ事務所 ローカルスタッフ 6名</li> </ul>
会員数	正会員 125名／個人賛助会員 324名／ジュニア賛助会員 17名／団体賛助会員 103団体／ファンクラブ会員 775名 【合計延べ 1,344名・団体】
加盟団体	(特活)関西NGO協議会 (特活)地雷廃絶日本キャンペーン 児童労働ネットワーク 日本小型武器行動ネットワーク (特活)国際協力NGOセンター(JANIC) ウガンダ小型武器行動ネットワーク 国際小型武器行動ネットワーク 世界子ども兵禁止連盟 京都NGO協議会 グルNGOフォーラム 京都経営品質協議会 素晴らしき経営研究会 (特活)遠野まごころネット

## 目的の世界 テラ・ルネッサンスの目的(ヴィジョン)

すべての生命が安心して生活できる社会 (=世界平和) の実現

## 使命の樹 テラ・ルネッサンスの使命(ミッション)

当会の事業を通じ、人々に『次世代に対する責任』を啓発し、それが個人、家庭人、社会人、そして地球市民として、未来の子どもたちの生活をも視野に入れた生活(簡素な生活)を実践することにより、人類共通の理想『世界平和』を実現する。

## 理念の土壌 テラ・ルネッサンスの活動理念

1. 私たちは一人ひとりに「未来をつくる力」があると信じ、市民の可能性を追求しています。
2. 私たちは内なる変化がすべての変化の始まりであり、変革の主体者は私自身であることを理解しています。そして、他人も変革の主体者であることを理解し、相手を尊敬しています。
3. 私たちはあらゆることは常に変化することを理解し、あきらめずに活動し続けています。



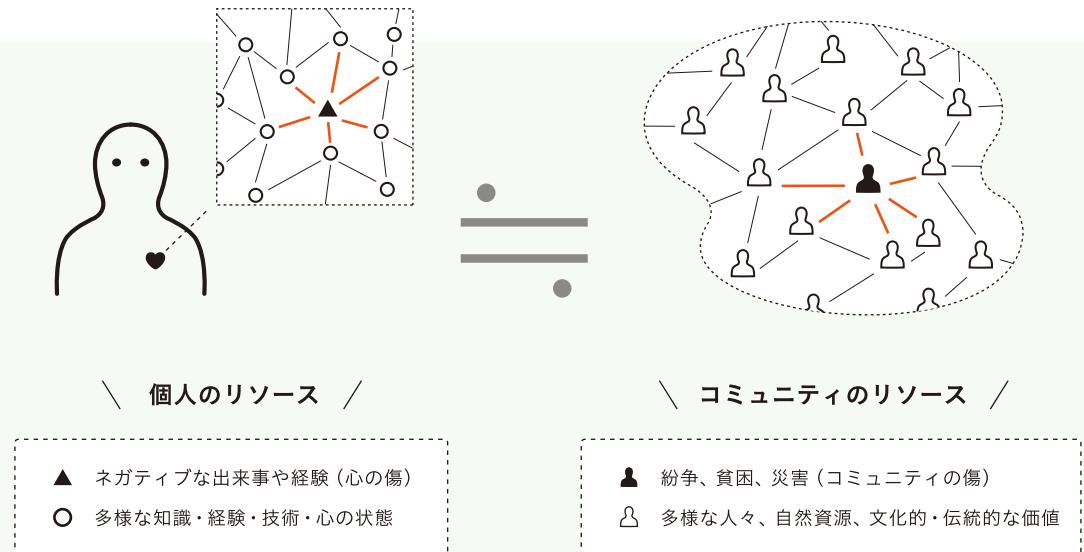
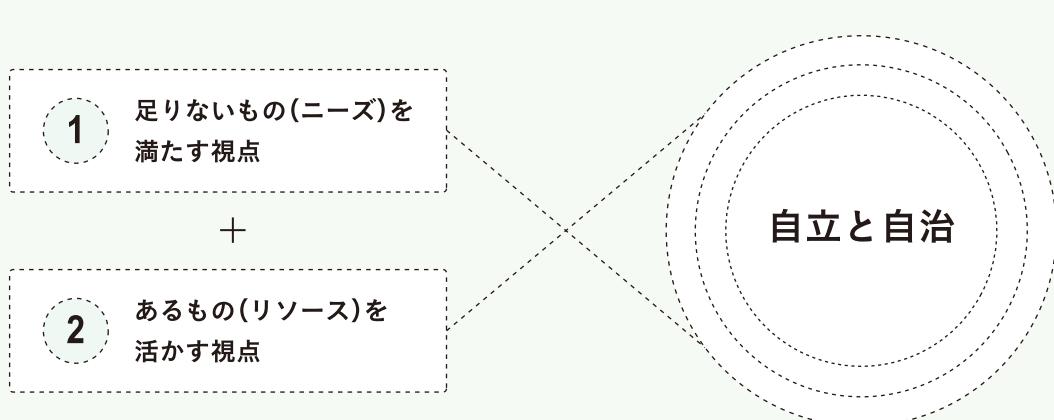
ひとり一人に未来をつくる力がある

テラ・ルネッサンスのすべての活動は、設立目的(ヴィジョン)を追求するために行われます。ヴィジョンを達成するために、責任を持って果たさなければならない任務が使命(ミッション)です。そして、すべての活動の指針となるのが、活動理念です。



## テラ・ルネッサンスが見つめる、「支援」に大事な2つの視点

私たちは支援を行う上で、大きく2つの視点を大事にしています。テラ・ルネッサンスが考え、実践してきた、より良い支援のあり方から『支援の本質的な価値』について考えます。



### 1. 足りないもの(ニーズ)を満たす視点

私たちが途上国で活動をする際に、まず、最初にすることがニーズ調査というものです。これは、対象者や対象地域が抱えている困難(傷)や課題を明確にして、何が欠如しているのか、例えば、食料がない、設備や機材がない、技術がない、適切な制度やルールがない等など、「無いもの探し」をします。そして、この足りない部分(ニーズ)を満たすために、現地での事業を組み立てるわけです。これが、援助の基本的なあり方です。私たちは、援助を受ける側の視点に立って、できる限り一人ひとりの細かなニーズを満たすことを重視しています。

### 2. あるもの(リソース)を活かす視点

しかし、同時に、対象地域や対象者それぞれが持っている多様なチカラ(リソース)を活かす視点

を大切にしています。そのチカラとは、個人に内在する多様な知識や経験、技術だけでなく、さまざまな心の状態、例えば、他者を助けたいと思う心、歌やスポーツを楽しめる心、夢や希望を叶えたいと思う心など、そして、地元の自然資源、文化的、伝統的な価値などです。また、家族や友人、近隣住民、周辺地域との関係性(つながり)もまた、その人(地域)にとっての重要なリソースであると考えています。どれだけ困難(傷)や課題を抱いていても、対象者(地域)には、多種多様なチカラ(リソース)が備わっていると考えているからです。

これらのリソース(要素)が有機的につながり合い、一つのシステムのように機能することで、それぞれが過去に傷を負っていても、また、現在、様々な困難やリスクに直面していても、それらに柔軟に適応していくことができると考えています。

### 3. 自立と自治の促進をめざして

そのためには、対象者や対象地域がどんなリソースを持っているのか(往々にして先進国の人たちが知り得ない知恵や知識を対象地域の人々が持っていることがあります)を援助する側がよく学び、包括的な視点を持つことが必要です。そして、様々なリソースを活用して、個人やコミュニティが発展していくプロセスは実に多様なため、可能な限り現地の人々の主体性を尊重しながら、一人ひとりに寄り添う支援が大切だと考えています。

テラ・ルネッサンスでは、①足りない部分(ニーズ)を満たし、対象地域の人々のリソースを増やしていくとともに、②現地の人々が持っている多様なリソースが活かされるような環境を整えていくことが援助する側の役割だと認識しています。

そのことで、現地の人々が自らのチカラで人間らしい生活を再建(自立)し、個人やコミュニティが、それぞれの抱えている課題に主体的に意思決定し、取り組んでいく「責任と権限(自治)」を育んでいって欲しいと考えています。



テラ・ルネッサンスの支援活動を推進する職員とインターン生たち。

文章／小川真吾(テラ・ルネッサンス 理事長)



## 国際協力事業 アジア Asia

カンボジアでは、地雷埋設地域において貧困層1,348人に村落開発支援を実施、小学校建設により630名の子どもたちが小学校に通えるようになりました。また、ラオスでは、353名の不発弾汚染地域の子どもたちが中学校に通えるようになりました。

アジアでは、カンボジア北西部での地雷＆不発弾撤去、地雷被害者支援や、ラオス、シエンクアン県での不発弾撤去と不発弾被害者の支援を行ってきました。

カンボジアでは、1979年から2015年2月までに64,495名の地雷＆不発弾被害者が記録されています。テラ・ルネッサンスでは、最も地雷汚染のひどいバッタンバン州のタイ国境地域で、地雷撤去とともに地雷埋設地域に住む貧困層の支援を実施してきました。昨年は、カムリエン郡とバヴェル郡の3村で村落開発支援を実施し、収入向上支援、基礎教育支援の2つの活動を実施。村人たちが自立して、生活していくことを目指して活動しました。また、ラオスでは、南部の不発弾汚染状況を調査するとともに、ラオスの不発弾啓発用漫画の英語版の製作を行いました。

### テーラー(洋裁師)は、素晴らしい仕事です。

今年は、カンボジア事務所同様、裁縫技術訓練を始める前に、訓練場所とその周辺の清掃、ゴミ拾いを訓練生たちと一緒に行いました。2014年4月～9月までは、ロカブッズ村で、クメール伝統衣装の製作技術を教え、訓練生たちは最貧困層で開店資金が足りないにも関わらず、7名のうち5名がすでにお店を開いています。2014年10月からブオ・ソンクリアチ村で洋裁技術を教えています。この村の訓練生たちは、熱心に技術を向上させようと努力しており、私が何度も同じことをいう必要はなく、訓練を始める前には、自分たちでゴミ拾ったり、清掃をしています。

私は、よく訓練生たちに話します。『この仕事(テーラー)は、本当に素晴らしい仕事です。だから一生懸命勉強しなさい』と。自分と同じ最貧困層出身の彼女たちの未来を変化させる手助けができるのが、私はとても嬉しいです。私がきちんと技術を教えることで、最貧困層の村人たちが収入を得て生活を変化できるようになることが『世界平和の実現』につながると信じています。



文章/  
裁縫技術指導員  
サムリット・ラウ



### 2014年度の事業を振り返って

この1年は、昨年に引き続き事務所、そして事務所の前の通りを、毎朝清掃しました。私たちは他人の変化の前に、まず自分たちの内面を変化させようとしています。その結果、事務所の近くに住む村人たちも私たちに協力してくれるようになり、大きな変化が見られるようになっています。これは支援の対象地域の村や学校でも同じです。通りや家の周り、学校、トイレなどを清掃し、毎月の村のミーティング(自治会)の参加者もどんどん増え、家庭菜園を始めた村もあります。村人たちが大きく変化したのです。もちろんまだ困難はたくさんありますが、私たちは諦めずにトライし続け、次の年はさらにより良い活動ができるようにスタッフ全員で協力し合い、テラ・ルネッサンスの目的である『世界平和』を達成したいと思います。



[カンボジア事務所]  
プロジェクト  
コーディネーター  
クン・チャイ

## 1

## カンボジア 地雷埋設地域村落開発支援プロジェクト

事業の目的	地雷埋設地域の貧困削減。地雷被害者や、元子ども兵、小型武器の被害者を含む戦争被害者が、自立して生活できるようにサポートをするとともに、新たな地雷＆不発弾事故を防止する。		
事業地域	カンボジア王国バッタンバン州	受益者数(累計)	約400家族
受益者カテゴリー	地雷埋設地域に住む貧困層の村人、地雷被害者、障害者	事業実施期間	2006年10月～継続中

## プロジェクトの成果

今年度はバッタンバン州カムリエン郡の2村とバヴェル郡のブオ・ソンクリアチ村、パイリン特別市のオウ・チェット・プラム村での地雷被害者家族を含む貧困層の自立支援を実施しました。

[ プレア・プット村 ] 地雷被害者パン・ブン氏と家族への自立支援を始めました。ブン氏は、借りていた家を追い出されてテント生活をしていましたが、ブン氏の家族が暮らせるように土地の購入を支援しました。また、プレア・プット村小学校を卒業した生徒たちが通うカムリエン中学校に井戸を1基建設し、トイレや手洗、先生たちの生活用水として使用できるようになっています。

[ 口カブス村 ] 村の小学校の横の道沿いの集落に生活する約50家族を対象に、水路を掘削し、揚水ポンプを提供することで、1年を通して作物の栽培が可能になりました。この水路を利用して、各家庭での小規模家庭菜園を推奨しており、毎月のミーティングでは野菜の種を村人たちへ配布しています。また村のミーティングでは、手洗講習を実施したり、村のゴミ拾いを実施する計画を立て、村人たちが実行するなど自治が根付きつつあります。基礎教育支援として、小学校に通えていなかった村の子どもたちや、授業を休みがちなために学習が遅れていた子どもたちへの補習授業を実施しています。また村の多くの子どもたちが通う隣村のコイ村小学校へ図書室を設置し、本に触れる機会を提供しました。収入向上支援として、2014年4月～9月まで、クメール伝統衣装の製作技術訓練を7名の村人たちへ実施しています。

さらに、村で生活する地雷被害者スー・マウ氏への自立支援として、昆虫の捕獲機材と子牛2頭を提供。これにより、これまで畑仕事による収入しかなかったマウ氏は、複数の収入源を確保できるようになり、2名の子どもたちも学校へ通えるようになりました。

[ 写真:上 ] 口カブス村のミーティングで手洗講習を行う様子 [ 写真:中 ] 口カブス村に掘削した家庭菜園用の水路 [ 写真:下 ] 地雷被害者のスー・マウさんと家族



[ ブオ・ソンクリアチ村 ] ブオ・ソンクリアチ村では、2014年10月から、6名の村人へ裁縫技術訓練を開始しました。2015年3月まで、一般洋裁の技術訓練を実施し、6名とも洋裁技術の実技テストに合格しています。今後の6ヶ月間で、クメール伝統衣装の製作技術訓練を実施する予定です。

[ オウ・チェット・プラム村 ] オウ・チェット・プラム村に住む地雷被害者ヨーク・チエン氏家族への自立支援を開始しました。また、チエン氏が暮らす家の壁の補修や、昆虫採取の機材一式と子牛1頭を提供しています。

[ 写真 ] ブオ・ソンクリアチ村での裁縫技術訓練の様子



## 2

## カンボジア 地雷撤去支援プロジェクト

事業の目的	カンボジア北西部地域において、2012年までに「犠牲者ゼロ (Zero Victim)」、2015年までに「汚染影響ゼロ (Impact Free)」を目指し、貧困地域の開発支援へつなげる。		
事業地域	カンボジア王国北西部地域	受益者数(累計)	—
受益者カテゴリー	地雷原と地雷原周辺に住む村人	事業実施期間	2001年～継続中

## プロジェクトの成果

提携する地雷撤去団体 MAG へ地雷撤去活動費 4,000 ドルを提供し、カンボジア北西部に残る地雷＆不発弾の撤去活動に貢献しています。2014年1月～12月までの地雷・不発弾の事故は、98件記録されています。その内、地雷の事故は56件(57%)、42件(43%)が不発弾による事故でした。2014年の地雷・不発弾の犠牲者数は154名で、この数字は2013年の111名から39%増加したことになります。この154名のうち、72名(47%)が地雷による犠牲者、82名(53%)が不発弾による犠牲者です。また、21名(13%)が亡くなり、95名(62%)が負傷し、38名(25%)が四肢切断を余儀なくされました。109名(71%)が男性、27名(17%)が18歳未満の男の子、6名(4%)が18歳未満の女の子、12名(8%)が女性でした。過去2年間(2013-2014)では、バッタンバン州が56名の犠牲者と、カンボジアの中でも最も多くの被害が出ており、引き続きこの地域での地雷撤去に尽力していきます。



### カンボジア地雷埋設地域教育支援プロジェクト

事業の目的	カンボジア北西部地雷埋設地域における教育環境の整備と就学適齢児童への初等教育の機会の提供、カンボジア北西部地雷埋設地域の識字率の向上と貧困削減		
事業地域	カンボジア王国北西部地域	受益者数(累計)	約650人
受益者カテゴリー	地雷原と地雷原周辺に住む小学生	事業実施期間	2008年～継続中

#### プロジェクトの成果

村落開発支援プロジェクトを実施するプレア・プット村の小学校を卒業した子どもたちは、隣村にあるカムリエン中学校へ通っていますが、水がないために苦労していました。そこで、井戸を1基掘削し、1,000名を超える生徒と先生たちが乾季にトイレなどを使用するために必要な水を確保できました。また、ロカブッス村から多くの子どもたちが通うコイ小学校へ図書室を設置。2011年に建設したオウ・チェット・プラム村小学校へは、セラミック製水濾過器を提供しました。

ブオ・ソンクリアチ村小学校では、幼稚園クラス教員2名と図書室司書への給料を提供することで、村の小学校の教育の質の改善を図っています。また、サムロン・チェイ村の穂高小学校では、教育省から手違いで配布されなかった1～5年生までの教科書を購入支援し、また床と屋根の補修工事を実施しています。ブオ・ソンクリアチ村、穂高小学校とも、授業はもちろん、ゴミの管理や学校の環境整備が積極的に実施され、とても質の良い教育環境が整いつつあります。



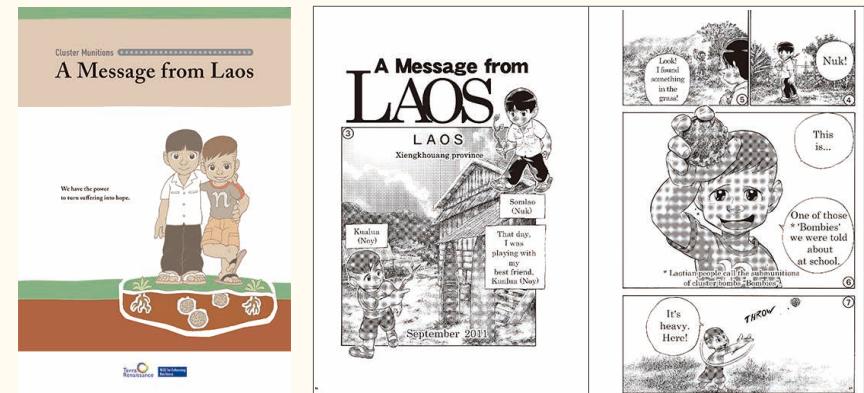
[写真:上] 小学校で授業を受ける生徒たち

[写真:下] 図書室ができる喜ぶコイ小学校的校長先生

### その他に取り組んだ活動

#### ■ 不発弾啓発用漫画本、英語版の製作

ラオスの不発弾問題を啓発する漫画の英語版の製作費をクラウドファンディングのReadyfor?で集め、英語版の製作を始めました。現在、出版許可をラオス政府の不発弾問題を管轄するNRAを通して申請中であり、ラオス国内の観光地や主要都市のホテルやゲストハウスなどへ配布することで、ラオスに訪れる年間約400万人の観光客への啓発を実施する予定です。



※ 2015年7月1日現在、ラオス政府の不発弾対策機関であるNRAの出版手続きの確認を経て、8月中旬には印刷が完了し、ラオス国内で配布を開始する予定です。

#### ■ ラオス南部不発弾調査

ラオス南部のベトナム戦争当時ホーチミン・ルートが通っていたアッタプー県、サヴァンナケート県、カムムアン県の不発弾問題の調査を、フォトグラファーの山田しん氏と、本会スタッフ江角が実施しました。ラオスの南部でも、人々の生活圏内にまだ多くの不発弾が残されていることを目の当たりにしました。そして、下記の雑誌にラオスの記事を掲載し、まだ知名度の低いラオスの不発弾問題を日本人の人たちへ啓発することができました。

[サンデー毎日] 2015年3月29日 増大号 巻頭グラビア 5P  
「欧米人があこがれるアジアの国 ラオス」

[週刊金曜日] 2015.4.17 第1036号 写真ルポ ラオス 4P  
「大木の根もとに不発弾が眠っている」





## 国際協力事業 アフリカ Africa

ウガンダでは、これまで168名の元子ども兵、及びその家族を含む紛争被害者、計1,078名への支援を行ってきました。コンゴ(民)では元子ども兵や孤児、性的暴力を受けた女性、最貧困層、計711名、ブルンジ共和国では1,036名を対象にした支援活動を実施してきました。

今年度、ウガンダ北部では、子ども時代に反政府軍に誘拐され、兵士として駆り出されてきた元子ども兵20名(第6期生)の社会復帰訓練が完了し、ミシンや木工用具などの資機材を供与しました。また、19名(第7期生)への職業訓練などの社会復帰支援を実施しました。コンゴ東部では、紛争下で暮らす元子ども兵や孤児、性的暴力を受けた女性たちが衣食住を満たすことをめざして、自給食料を生産するための支援や職業訓練などを行いました。ブルンジでは、紛争の影響を最も受けた地域の1つであるムランビヤ県で、元子ども兵や紛争被害者、最貧困層らの自立を促進するための施設建設を完了し、自立支援プロジェクト(2015年度開始)の立案調査が完了しました。

地域の人たち自身が、地域の課題を考える



ウガンダ北部で2005年に開始した、元子ども兵の社会復帰支援プロジェクトは、開始5年目から10年目の間に、地元人材だけで運営することを目指し、3年前から現地スタッフ主導で事業を運営しています。現地スタッフは全員、同じ紛争を経験し、家族や親戚を紛争の影響で失うなどして苦しみや悲しみを共有してきた地元出身者たちです。

日本人職員も現場でプロジェクトをモニタリングしていますが、今では、元子ども兵一人ひとりの状況に応じて、日本人が見落としがちな地元ならではの解決策も提示してくれています。また、子ども兵の問題だけでなく、他の地域課題を見つけては、新しい活動の提案を積極的にしてくれるようになりました。地域の人々が協力して、主体的に課題解決に取り組んでいくことが非常に重要であると再認識しています。これからも、地域の自立と自治を促進していくためにも、現地スタッフの主体性を尊重しながら活動を進めていきたいと思います。

### 2014年度の事業を振り返って

ブルンジでは、独立後、20万人以上にも及ぶ人々が大虐殺により死亡し、1993年以降の紛争でも30万人以上の命が奪われました。それにも関わらず、メディアからは注目されず、世界から関心を持たれることはありませんでした。私自身もこの紛争で家族を失いました。しかし、20年ぶりに祖国へ帰ると、紛争で荒廃した中にも、希望を失わず国づくりに取り組もうという人たちに出会いました。今も世界で2番目に貧しい国ですが、私たち、テラ・ルネッサンスは、ブルンジの人々の自ら立ち上がりをする力を信じて、この地で活動を進めていきたいと思っています。どんな困難や過去の苦しみを抱いていても、一人ひとりが自らに誇りを取り戻すことができるとき私は信じています。日本の方々が、祖国ブルンジに関心を持ち続けてくれることを心より願っています。



[アフリカ事業]  
コーディネーター  
トシャ・マギー

1

## ウガンダ北部における元子ども兵社会復帰支援プロジェクト

事業の目的	元子ども兵が社会復帰するために必要な能力を身につけ 経済的に自立するとともに地域住民との関係を改善しながら コミュニティで安心して暮らせるようになる。		
事業地域	ウガンダ共和国 … グル県、 アムル県、キトグム県、バデー県	受益者数(累計)	1,078名(内、元子ども兵は168名)
受益者カテゴリー	元子ども兵及び最貧困層住民	事業実施期間	2005年5月～継続中



### プロジェクトの成果

2011年7月に受け入れた元子ども兵20名（第6期生）への3年間の社会復帰支援が2014年7月に完了し、全員が自らの力で衣食住を満たして生活できるようになりました。また、第7期生の元子ども兵19名に対して、職業訓練、基礎教育、平和教育、心理社会支援、BHN（食費、医療費等）支援などを実施し、2014年12月にフルタイムでの社会復帰訓練が完了しました。2015年1月には、同19名に対して、習得した知識と技術を使って収入を向上していくためのミシンや木工大工用具などの資機材を供与することができました。現在も継続して、安定した収入が得られるように収入向上支援を行っています。

[写真:左] 服飾デザインの職業訓練を完了し、資機材を受け取る元子ども兵たち

[写真:右] 服飾デザインと木工大工の職業訓練の様子



2

## 不法小型武器問題啓発プロジェクト

事業の目的	不法小型武器の蔓延がコミュニティに 悪影響を与えることを一般住民に啓発すること。		
事業地域	ウガンダ共和国 … カンバラ市	受益者数(累計)	—
受益者カテゴリー	一般市民	事業実施期間	2005年2月～継続中

### プロジェクトの成果

ウガンダの不法小型武器問題の啓発活動に取り組む市民社会組織（ウガンダ小型武器行動ネットワーク）が中心となり、不法小型武器の問題を一般市民へ啓発するための活動（セミナーの開催）を支援することができました。

3

## コンゴ東部地域における元子ども兵及び紛争被害者支援プロジェクト

事業の目的	元子ども兵及び紛争被害者がエンパワーメントされ、 BHN（人間としての基本的なニーズ）を満たして生活できるようになる。		
事業地域	コンゴ民主共和国 … 南キブ州、 カレヘ行政区、カロンゲ区域	事業実施期間	2009年6月～継続中
受益者数(累計)	直接受益者:711名 間接受益者:約2,000名（直接受益者の家族及び近隣の貧困層住民）		
受益者カテゴリー	元子ども兵／紛争被害者（性的暴力の被害女性、孤児、最貧困層住民）		

### プロジェクトの成果

コンゴ東部では、対象地域の12カ村に相互扶助（助け合い）グループを組織し、農業の技術指導、種子や農機具の供与など、グループのメンバーが紛争下においても協力して自給食料を安定的に確保することをめざして活動を行いました。

2014年度は、4つの村が治安悪化により他の村に一時的に避難を強いられましたが、避難先の村で自給食料を生産できるように、避難民と受け入れ住民に対して農機具や種子の供与を行いました。また、武装グループによる断続的な襲撃に起因する、避難民を受け入



れる村のグループのメンバーの負担も考慮し、治安や資金状況に左右されない、避難民へのより敏速かつ安定した支援の実施をめざし、共同農場（グローブファーム）を設置しました。この農場では、各グループのメンバーらが交代で農作業を行い、一定の食料を生産、備蓄しておくことで、どこかの村で襲撃があった際にいち早く、現場レベルで食料の支援を実施することを第一の目的としています。

また、元子ども兵や性的暴力を受けた女性や孤児などの紛争被害者に対して、収入源を確保するために必要な職業訓練、そして、訓練後に収入向上活動を行っている受益者へのフォローアップを実施しました。一昨年（2012年）、洋裁店の開業支援を実施した5つのグループは、1人当たり平均40ドル／月は稼げるようになっており、安定した運営が行えています。今年度は、新たに16名の性的暴力を受けた女性や、夫に見捨てられた未亡人、孤児、さらには家族の支えも仕事もなくコミュニティで孤立している女性など計20名に対しての洋裁訓練を実施し、全員、半年間の職業訓練を完了しました。また、これまで溶接技術の訓練を受けた元子ども兵たちは、鉄製のドアや看板の製作、修復、バイク修理サービスを村人たちに提供し、病院や教会のドアなど公共施設に必要なモノの修理や製作も依頼され、仕事を継続することができます。



[写真:上] グローブファームでの様子 [写真:下] 身に付けた溶接の技術で、鉄製のドアを製作する元子ども兵たち

#### 4

#### コンゴ東部南キブ州における緊急人道支援活動

事業の目的	紛争の影響を受けた人々が最低限の衣食住を満たすこと		
事業地域	コンゴ民主共和国 … 南キブ州、ウビラ行政区、サンゲ村	受益者数(累計)	20家族
受益者カテゴリー	国内避難民	事業実施期間	2014年7月～2015年3月

#### プロジェクトの成果

2014年6月、コンゴ民主共和国南キブ州のウビラ行政区、ムタルレ村において、一般市民が犠牲となる虐殺が発生し、38名が殺害され、20名が負傷（うち10名は重体）しました。その影響で同村3,800世帯が近隣の村々に避難を強いられ、親戚や知人などを頼って、長期の避難生活を強いられています。同事業では、サンゲ村へ避難し、頼る知人や、土地、仕事がない20家族の人々を対象に、生活を再建するための資金供与（小規模ビジネスの準備金）や、農作物の種子の供与などを行いました。



#### 5

#### ブルンジにおける元子ども兵及び紛争被害者自立支援センター住民参加型建設プロジェクト

事業の目的	元子ども兵及び紛争被害者の自立を促進する拠点となる施設が建設されるとともに、コミュニティ内での和解と信頼構築が促進される		
事業地域	ブルンジ共和国 … ムランビヤ県キガンダ郡キガンダ準郡、カネグワ村	受益者数(累計)	36名
受益者カテゴリー	元子ども兵（元兵士を含む）、孤児、最貧困層住民	事業実施期間	2013年10月～2014年5月



#### プロジェクトの成果

昨年度から実施してきた元子ども兵などの紛争被害者の自立を促進していくための施設（オンズ自立支援センター）建設が完了しました。同施設では、紛争被害者の自立・社会復帰を支援するための事業実施の活動拠点として活用することとしています。また、建設にあたって、建設資材はすべて現地調達とし、当会の職員及びパートナー団体の代表2名を中心に事業管理を行い、建設作業員として元子ども兵を含む紛争被害者や最貧困層の住民36名が参加しました。

また、同センターにて2015年4月から養蜂の技術訓練を始めました。紛争、災害、貧困、あらゆる困難を経験してきた村人たちが、同地で昔から薬として重宝されてきたハチミツの生産技術を学び、地元の特産品としてブランディング（製品化）していくプロジェクトです。そのことで、コミュニティの収入源を多様化し、地元の人々が心に誇りを取り戻して欲しいと願っています。



[写真:上] センターの開所式に参加した地元の子どもたちと当会職員及びパートナー団体職員  
[写真:下] 養蜂の技術訓練の様子。蜂蜜の採取を待ち望む。



## 「ともつな基金」事業 日本 Japan

大槌復興刺し子プロジェクトでは、これまで183名の刺し子さん（刺し子を活用した商品の制作にかかる方）に、Tシャツやふきん、コースターなどの商品制作代金2,600万円以上をお支払いしました。

岩手県上閉伊郡大槌町において、日本に昔から伝わる手仕事の1つである「刺し子」を活用した商品の企画・制作・販売を行う、大槌復興刺し子プロジェクトを運営しています。

刺し子さんの中心となって活躍しているのは、中高年の女性の方々です。商品の買取り、材料の配布を行う「刺し子会」、商品制作に必要な技術を学ぶ「技術講習会」、刺し子さん同士や、刺し子さんと現地を訪問された方々の交流の場としての「お茶っこ会」を開催しています。商品は、インターネットや各地のイベント、店舗で販売しています。

## 刺し子を通じて町や自分たちの未来をつくる

事業開始から4年目。「より良い商品をお届けするため、もっと刺し子を勉強したい」そんな刺し子さんたちの声から、刺し子の本の貸出をはじめたり、刺し子の講習会やワークショップを開催しました。

2014年10月27日にお招きしたのは、秋田の伝統的な刺し子をもとに、『夢』『願い』などを模様に込め、現代の生活でも使える花ふきんを制作されている、近藤陽絹子氏。30名ほどの刺し子さんが参加し、さらしを裁断する方法や、下書きの方法など、新しい技術を教えていただきました。

意欲的に刺し子を学ぶ刺し子さんを見て、私たちスタッフも、刺し子が大槌に根付く姿が、より具体的に浮かぶようになりました。「マスト（地元のショッピングセンター）の本屋さんに、たくさん刺し子の本が並んでいる」「刺し子さんたちが学校に出向いて、子どもたちに刺し子を教えている」ささやかだけれど温かい、そんな未来を、刺し子さんたちとともに作っていきます。〔写真：上〕刺し子ワークショップでの作品 〔写真：下〕刺し子の本棚



## 2014年度の事業を振り返って

震災から4年目となり、大槌町内へのボランティアの人数や、震災に関する報道・イベントが目に見えて減りました。町外の人びとの関心が薄れることと、なかなか進まない町の復興のはざまで刺し子さんだけでなく、私たち職員も焦燥感を感じることが多々ありましたが、そのような時だからこそ、刺し子という拠り所がある強さを感じています。

2014年度は改めて「自立と自治」をテーマに据えて、刺し子さんにも、積極的に事業の現状を開示することに努めました。自分たちの商品をどんなお客様に買っていただいているのか、どんな場所で売っていただいているのか、コラボ商品の提携先の企業さまはどんな想いで大槌刺し子を選んでくださったのか、現状を理解してもらい、ビジネスとして求めるレベルを伝えることを意識した1年でした。その結果、支援を受ける側ではなく、自立した個人として事業に参加してくださる刺し子さんが以前より増えました。また、2014年10月25日にお客さまをお招きして東京で感謝祭を開催し、より自立した事業となることを宣言しました。復興需要が落ち込む中、今後どのような形で事業を行なうことが大槌にとって、お客様にとって良いのかを、常に問い合わせ続けてまいります。



〔日本 岩手事務所〕  
大槌刺し子  
プロジェクトマネージャー  
**内野 恵美**

## 大槌復興刺し子プロジェクト

### 事業の目的

刺し子商品を企画・販売し、東日本大震災で被災された方々への商品制作代金の支払いを通じて、生活再建を促進する。また、商品制作にあたり技術講習会などを通じ、被災された方々の相互交流を活性化させ、心理的・社会的負担の軽減を図る。

「刺し子」による、継続的な手仕事の提供、地元人材の雇用創出、及び事業を通じた訪問客等による地域活性化への貢献のため、東日本大震災から10年後の2021年までに、NPO法人テラ・ルネッサンスから、独立採算による別法人化を果たし、現地職員と地元住民による運営を目指す（運営体制は2015年6月現在、精査中です）。

事業地域	日本	受益者数(累計)	183名
受益者カテゴリー	東日本大震災の被災地域の女性	事業実施期間	2011年6月～継続中



### プロジェクトの成果と課題

東日本大震災で被害を受けた岩手県大槌町を中心として、これまでに183名の女性に刺し子商品を制作していただき、その収入は累計2,679万円と生活再建の一助となりました。毎週行う「刺し子会」では、作り手の女性たちが交流し、またお互いの技術を向上する場となり、そこには生きがいが生まれています。一方、2014年度の商品売上は2,547万円と前年比14%減でした。これまで売上が多かった復興市場が縮小している中、一般市場へのシフトが進まず、また販売・生産のバランスが合わず商品在庫数が多くなりました。2015年6月現在、商品ブランディング、ラインナップ、販売方法等をはじめ、今後の運営体制を精査し、社会により良い価値を提供していくことを目指しています。



[写真:左] 刺し子会の様子

[写真:右] ポロシャツ（かもめ）

商品のお買い求めは、コチラから

大槌刺し子

検索

## その他に取り組んだ活動

### ■ 三陸沿岸のストリートビュー撮影

Google の復興支援プロジェクトである「東日本大震災デジタルアーカイブプロジェクト」にパートナーとして協力、海から見た三陸海岸の景観をストリートビューで撮影しました。ストリートビューはGoogle が提供する地図製品 Google マップの一機能で、街中等を360°のパノラマ写真で見ることができます。当会は、宮城県(石巻市・南三陸町)、岩手県(大槌町・大船渡市・釜石市・宮古市)を船で回り撮影しました。



### ■ 大槌町・釜石市の水産業支援

岩手県大槌町・釜石市の漁業支援として、アワビの放流、ホヤの種苗採取、定置網周辺調査のコーディネート、及び現場での活動を行いました。また新おおつち漁協、東京大学と共同して、大槌町の船越湾内で、養殖漁業の妨げになる海底のがれき調査を行い、地元漁業を支援しました。



[写真:左] 海底のがれきをモニターで確認



[写真:右] ホヤの種苗採取

### ■ 大槌情報共有会の開催

2012年度にイベントのダブルブッキングなどを解消するため当会主催で始めた情報共有会を月2回開催し、大槌町の団体が情報共有する場として定着しています。共有会の参加団体が連携し発足した子どもの遊び場をつくるプロジェクトは、月に1度イベントを開催しています。



## 啓発事業 日本 Japan

めぐるプロジェクトへの参加者1,198名・団体、本やウガンダコーヒーといったテラ・ルネッサンス関連商品の購入者309名・団体、講演会への参加者17,600名のほか、41名をボランティア、インターンとして受け入れました。

現場での支援はもとより、現場で起こっている問題の根本的な解決を目指すテラ・ルネッサンスでは、一人でも多くの方に、テラ・ルネッサンスが取り組む課題、そしてその課題解決に向けた取り組みを知っていただくため、日本国内での啓発活動に取り組んでいます。めぐるプロジェクトとして、書き損じはがき、使用済みインクカートリッジ（2015年3月末日にて終了）、不要になった携帯電話、キフ★ブック（古本等）、フクサボ（衣類等）、コシサボ（古紙）への参加呼びかけを行うとともに、書籍、講演DVD、ウガンダコーヒー、クッキー、シアバター等の販売も行っています。さらにイベントや活動報告会では活動内容の紹介を行い、講演会の講師として日本各地を訪れています。

また、啓発活動を行う上で重要な平和の担い手を育成するため、人財育成（ボランティア、インターンの受け入れ）も行っています。

書き損じはがきで思いをつないだ、

## 「7716(なないろ) キャンペーン」



集めた書き損じはがきの支援金を、  
カンボジアのチョーク・チエンさん一家に  
届けました。

年賀状のシーズンに合わせ、カンボジアの地雷被害者一家族の生活支援を目的に、書き損じたはがきや不要になった未投函のはがきの回収を強化するキャンペーンを行いました。「希望と平和をカンボジアに届けたい」「このキャンペーンを日本とカンボジアの架け橋としたい」そんな想いを表すために、7716(なないろ=虹)枚のはがきを集めることを目標に実施しました。このキャンペーンには、多くの方々よりご協力をいただき、結果、目標を上回る8,516枚のはがきが集まりました。日本にて現金化し、現地に届け、地雷被害者家族への生活再建支援へつながっています。

## 2014年度の事業を振り返って

2014年度は、認定NPO法人となり、3つの表彰（受賞2、入選1）をいただき、組織としても飛躍の年となりました。その中で、「挑戦と徹底」をテーマに、コーヒーパッケージのリニューアルや、企業様との新しい協働、講演・イベントへの参加など、積極的に啓発活動を行いました。さらに、その担い手として京都ではインターンシップ生、他の地域ではボランティアの方々との連携も深め、国内での活動の幅を広げる年になりました。その結果として、より多くの手段で、より多くの方々へ当会が取り組む課題、活動を伝えることができるようになりました。

2015年度は、2014年度の学びを活かし、企業様との協働もさらに深め、各スタッフの個の能力を高めることで、関心の輪をさらに広げていきたいと思います。



[日本 京都事務局]  
啓発・人財育成チーム  
マネージャー  
**栗田 佳典**

## 啓発事業のプロジェクト概要と成果

キフ★ブック	フクサポ	コシサボ
身近な国際協力をテーマに、古本やCDを集めることで、誰にでも参加できる国際協力を提示し、関心を集めるとともに資金を調達する。	身近な国際協力をテーマに、古着を集めることで、誰にでも参加できる国際協力を提示し、関心を集めるとともに資金を調達する。	身近な国際協力をテーマに、古紙を集めることで、誰にでも参加できる国際協力を提示し、関心を集めるとともに資金を調達する。
参加者数 306名・団体	参加者数 435名	参加者数 48名
めぐるプロジェクト	講演・イベント	人財育成（インターン・ボランティア）
書き損じはがき、使用済みインクカートリッジ、携帯電話を集めることで、気軽な国際協力を提示する。	講演やイベントへの参加を通して、取り組む課題、活動への関心を集めめる。	大学生や社会人を主な対象として、次世代の平和の担い手となる人財を育成する。
参加者数 409名・団体	参加者数 17,600名	参加者数 のべ41人（2014年度）
物販（イベントを除く）	募金箱	パネル
書籍やコーヒーなどの商品の購入を通じて、テラ・ルネッサンスが取り組む課題、活動への理解を促し、関心を集めめる。	お店や企業内での募金箱の設置を通して、活動の啓発を行うとともに、活動を行うための資金を調達する。	子ども兵や地雷の写真パネルを通じて、取り組む課題、活動への関心を集めめる。
購入者数 309名・団体	参加者数 40団体   49,948円	貸し出し 7団体（うち行政施設2件）

表彰・受賞
<ul style="list-style-type: none"> <li>第25回 ヒューマンかざぐるま賞 [ 公益財団法人京都オムロン地域協力基金 ]</li> <li>第4回 自由都市・堺 平和貢献賞 [ 堺市 ]</li> <li>第3回 エクセレント NPO 大賞 組織力賞ノミネート [「エクセレント NPO」をめざす市民会議 ]</li> </ul>



[写真:左] 京都の清水寺で開催されたイベント時の様子。観光客の方々に活動の紹介ができました。



[写真:右] 第25回 ヒューマンかざぐるま賞の授賞式の様子。

## その他に取り組んだ活動



### ■ ウガンダコーヒーを、よりお買い求め安く！

かねてより、ウガンダのコーヒーを買いたいけれど、FAXや電話での注文が大変だというご意見をいただきました。そこで、インターネットから申し込み、決済ができるウェブサイトを新しく立ち上げました。ウェブサイト立ち上げに合わせて、コーヒーパッケージを一新、さらに、新しい展開として、ドリップコーヒーの販売も開始しました。収益は、ウガンダでの元子ども兵社会復帰支援に活用させていただきます。コーヒーを飲みながら、アフリカに、私たちの未来に思いを馳せてみませんか。

—\*—【寄附付き商品】—\*—  
—ウガンダコーヒー(粉) 200g  
¥1,200  
※この商品には税別税込が含まれています  
※別途税金がかかります  
※送付料につきはどちらを気ください。  
[カートに入れる](#)  
[お気に入りに追加する](#)  
  
【この商品は、300円の寄附付き商品です。】  
ウガンダコーヒー一般的です。  
この度パッケージリニューアルしました！  
これまでご覧いただいた方も、初めての方、  
ご購入ください。  
ウガンダコーヒーはウガンダからお届けする、  
の通販店（本社・大阪・東・北）だけで販売された  
いわゆる「アフリカのコーヒー」を販売して  
されています。美味しい味で、「美味しい味」と  
「相場系の甘い香り」が特徴です。  
  
商品のお買い求めは、  
公式物販サイトから。  
[terra-r.stores.jp](http://terra-r.stores.jp)



### ■ テラ・ルネッサンスでは初となる『チャリティパーティー』を開催しました

2014年12月6日、京都市内において、テラ・ルネッサンスでは初となるチャリティパーティーを開催しました。アジア・アフリカの受益者や現地スタッフからのメッセージを動画でご報告するなど、活動を応援してくださる皆様への感謝の気持ちをお伝えする機会にもなりました。

参加された皆様からは、「テラ・ルネッサンスの活動状況がよくわかった」「テラ・ルネッサンスを応援している仲間として、様々な分野で活躍する人との繋がりを持つことができた」など、多くの感想をいただきました。2015年も、東京と京都での開催を予定しています。

## 講演実績

企業  
株式会社阪急阪神百貨店 株式会社ヒューマンキャピタル研究所  
ブルデンシャル生命保険株式会社東京第七支社 ダイイチ株式会社 株式会社キャディッシュ  
西精工株式会社 ブライムエージェント株式会社 UBI 株式会社 ノア動物病院 トヨタ自動車株式会社  
株式会社アントレプレナーセンター いすゞ自動車株式会社 株式会社S・Yワークス 株式会社王宮  
株式会社セールスフォース・ドットコム オムロン株式会社 株式会社ウチヤマホールディングス  
株式会社デミック 近畿労働金庫 株式会社ヒトミ 花王株式会社 株式会社グッドカンパニー

教育機関  
横浜市立洋光台第二小学校 吹田市立山田第二小学校  
柏原市立堅下北中学校 寒川町立旭が丘中学校 枚方市立長尾西中学校 沖縄市立美東中学校  
ひたちなか市立勝田第一中学校 姫路市立城乾中学校 京都市立朱雀中学校 京都市立向島東中学校  
宇治市立西小倉中学校 宇治市立横島中学校 泉大津市立東陽中学校 門真市立第七中学校  
芦屋市立山手中学校

立命館大学 龍谷大学 首都大学東京 関西学院大学 東北芸術工科大学 大阪市立大学 横浜国立大学  
京都女子大学 同志社大学 三重大学 明治大学 静岡市立看護専門学校 常盤会学園大学 聖泉大学  
奈良県立大学 立教大学 大阪経済法科大学 21世紀社会研究所 一橋大学  
早稲田大学グローバルエデュケーションセンター 上智大学 創価大学 ミネソタ大学

行政  
紫波町役場 静岡市役所 堺市 津市 沖縄県自治研修所 姫路市役所 福岡県東峰村教育委員会  
京都府 熊本市 熊本県 小布施町 吳市役所 京都府職員研修・研究支援センター 人事院公務員研修所

団体  
公益社団法人青年海外協力協会近畿支部 公益社団法人日本WHO協会 公益社団法人鶴岡青年会議所  
公益財団法人ふくしま自治研修センター 公益財団法人京都府国際センター  
公益社団法人甲賀・湖南人権センター 一般社団法人茨木青年会議所 一般社団法人長浜青年会議所  
社会福祉法人合掌苑 社会福祉法人九十九里ホーム  
特定非営利活動法人きょうと NPOセンター 特定非営利活動法人関西NGO協議会  
特定非営利活動法人関西国際交流団体協議会 特定非営利活動法人いわて連携復興センター  
特定非営利活動法人アジア太平洋資料センター 特定非営利活動法人だっぴ  
特定非営利活動法人ワーカーズコープ 特定非営利活動法人おっちらぼ  
岡崎市立幼稚園 PTA 連絡協議会 金光教親光会 津山国際交流の会 にいがた「対話の森」コミュニティ  
日本道経会千葉支部 UA ゼンセンさとう労働組合 NS 実行委員会 立正佼成会浦和教会  
医療法人社団恵心会京都武田病院 成城新ロータリークラブ 日本アフリカ学会 関西青空プロジェクト  
志孝塾 松戸東ロータリークラブ 生活協同組合コープおきなわ ひたちなか商工会議所  
京都ロータリークラブ 京都橘ライオンズクラブ 遊識者会議 青年真志塾 金光教泉尾教会  
立正佼成会金沢教会 学生 NGO L'harmonie～ラルモニー～ 志士の会 船井 SAKIGAKE フォーラム  
JAIFIA 長野県協会 神奈川県電気工事工業組合青年部 PICC 群馬栃木支部設立委員会  
日本国際保健医療学会学生支部 アイセック京都大学委員会 奈良県高等学校人権教育研究会  
福島県JRC県南地区高等学校指導者協議会・連絡協議会 中野区職員勉強会 鬼丸昌也講演会実行委員会

[ 合計 144 団体 ] 企業 22 団体 / 教育機関 56 団体 / 行政 14 団体 / 団体 52 団体

## 主催イベント

2014. 4.09 (水) 第12回テラ・スタイル東京	「あなたにもワクワクを！ テラ・ルネッサンス×元開発コンサルタント - 新しい仕組みを生み出す理由 -」
2014. 4.09 (水) 第35回テラ・カフェ	「カンボジアスタディーツアー報告会 -僕らはあの一瞬(とき)を、忘れない-」
2014. 5.14 (水) 第13回テラ・スタイル東京	「僕のこだわり。ラオスにおけるプロジェクトマネジメント - こうして僕はラオスを変えるために一步を踏み出した -」
2014. 5.14 (水) 第36回テラ・カフェ	
2014. 6.11 (水) 第14回テラ・スタイル東京	
2014. 6.11 (水) 第37回テラ・カフェ	
2014. 7.09 (水) 第15回テラ・スタイル東京	「ブレンジの今と可能性 - ブレンジの未来について考えてみませんか -」
2014. 7.09 (水) 第38回テラ・カフェ	
2014. 8.06 (水) 第16回テラ・スタイル東京	「変化し続けるテラ・ルネッサンス - より分かりやすく伝える工夫 -」
2014. 9.10 (水) 第17回テラ・スタイル東京	
2014. 9.10 (水) 第39回テラ・カフェ	
2014.10.08 (水) 第18回テラ・スタイル東京	「あなたにできること - 京都・清水で考えてみませんか -」
2014.10.18 (土) 第40回テラ・カフェin清水寺	
2014.11.12 (水) 第19回テラ・スタイル東京	「社会をちょっとよくするアイテム - その可能性と一緒に考えてみませんか? -」
2014.11.12 (水) 第41回テラ・カフェ	
2014.12.07 (日) チャリティパーティ	
2014.12.10 (水) 第20回テラ・スタイル東京	「ウガンダの今とこれから」
2014.12.10 (水) 第42回テラ・カフェ	
2015. 1.14 (水) 第21回テラ・スタイル東京	「あなたの“おもい”が世界をめぐる -モノを集めて支援すること-」
2015. 1.14 (水) 第43回テラ・カフェ	
2015. 2.10 (火) 第22回テラ・スタイル東京	「鬼丸昌也講演会『一步を踏み出す勇気』 - 私たちは、ビリョク(微力)だが、ムリョク(無力)ではない -」
2015. 2.17 (火) 第01回テラ・スタイル京都	
2015. 2.18 (水) 第44回テラ・カフェ	「カンボジアの今とこれから - 彼らが今必要としているものとは -」
2015. 3.11 (水) 第23回テラ・スタイル東京	
2015. 3.11 (水) 第45回テラ・カフェ	「今も続く震災復興支援 - 私たちが目指す“自立と自治”とは -」

## 各種主催イベントへの参加

2014. 4.20 (日)	きょうのごはんに大感謝祭！ (京エコロジーセンター)
2014. 6.21 (土)	第8回チャリティバドミントン大会in大阪 (頑張らないバドミントン研究会)
2014. 9.13 (土)	国際協力ステーション2014 (JICA関西 公益財団法人京都府国際センター)
2014. 9.21 (日)	ソーシャルシネマダイアログ@カンテレ (ビースデーイベント) (関西テレビ放送株式会社)
2014.10.04 (土), 05 (日)	グローバルフェスタ JAPAN 2014 (グローバルフェスタ JAPAN 2014 実行委員会)
2014.11.03 (月)	京都ヒューマンフェスタ (京都人権啓発推進会議 京都人権啓発活動ネットワーク協議会 京都府)
2014.11.16 (日)	清水寺から世界へ！～思いやりの心と平和の輪～
2014.12.13 (土)	協同シンポジウムinきょうと (近畿ろうきん京都地区統括本部、京都生活協同組合)
2014.12.26 (金)	ワン・ワールド・フェスティバル for Youth (公益財団法人大阪国際交流センター)
2015. 2.07 (土), 08 (日)	ワン・ワールド・フェスティバル (ワン・ワールド・フェスティバル実行委員会)
2015. 3.08 (日)	Ecology × International ~えいこん話~ vol.5 (京エコロジーセンター)

## メディア掲載 (重複を除く)

京都新聞 奈良日日新聞 ニッキン 日本経済新聞 新潟日報 SankeiBiz 週刊金曜日 中部経済新聞  
朝日新聞 東京新聞 週刊東洋経済 毎日新聞 FMひらかた TBS 岩手朝日テレビ NHK IBC岩手放送

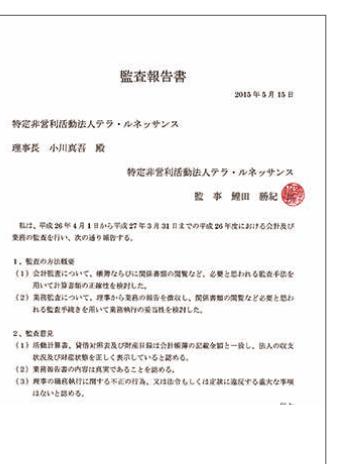
## 2014年度決算書並びに2015年度予算書

(単位:円)

I 経常収入の部		2014年度 予算	2014年度 決算	2015年度 予算
I. 会費収入		21,247,000	21,929,357	24,340,000
2. 寄付収入		43,392,000	42,032,041	54,900,000
3. 事業収入	啓発事業収入	15,312,000	12,794,293	11,500,000
	物品販売収入	29,523,000	26,903,513	22,000,000
	その他収入	1,590,000	1,181,131	—
	事業収入合計	46,425,000	40,878,937	33,500,000
4. 補助金等収入		13,120,000	4,873,205	22,000,000
5. その他収入		629,000	2,630,820	—
経常収益合計		124,813,000	112,344,360	134,740,000
II 経常費用の部				
I. 事業部門	国内事業費	啓発事業	12,734,000	19,822,439
		広報資金調達事業	—	8,397,455
		東日本大震災復興支援事業	43,651,000	39,799,713
		人材育成事業	1,385,000	999,132
		国内事業費計	57,770,000	60,621,284
	海外事業費	ウガンダ事業	15,266,000	17,820,276
		コンゴ事業	5,116,000	8,391,044
		ブルンジ事業	5,382,000	4,584,866
		アジア事業	30,819,000	18,062,544
		海外事業費計	56,583,000	48,858,730
	事業部門合計		114,353,000	109,480,014
2. 管理部門	人件費		4,517,000	1,846,169
	その他経費		5,611,000	4,118,835
	管理部門合計		10,128,000	5,965,004
経常費用合計			124,481,000	115,445,018
経常外費用			142,000	142,000
当期正味財産増減額			332,000	▲ 3,242,658
前期正味財産増減額			35,977,285	35,977,285
次期正味財産増減額			36,167,285	32,734,627

監査報告書

(単位:円)

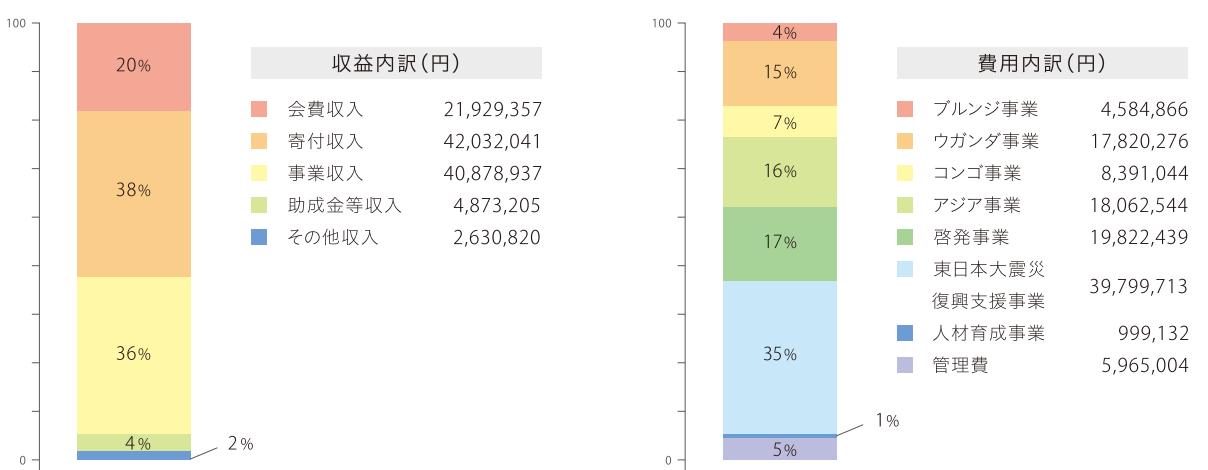


I 資産の部	I. 流動資産	II 負債の部	I. 流動負債
	現金・預金		未払金
	売掛金		未払い法人税等
	未収金		買掛金
	商品		預り金
	前払費用		流動資産合計
	立替金		負債合計
	マイクロクレジット		前期繰越正味財産
	流動資産合計		当期繰越正味増減額
II 正味財産の部	2. 固定資産	III 貸借対照表	正味財産合計
	有形固定資産		(2014年4月1日～2015年3月31日)
	投資その他の資産		
	固定資産合計		
	資産合計		

## 国際協力事業費明細

(単位:円)

ウガンダ事業	管理費	管理、運営のための人事費など	1,670,274
	BHN支援活動費	食費、医療費、家賃支援費など	6,078,933
	能力向上支援活動費	社会復帰訓練における教材費、指導員人件費	2,681,424
	心理社会支援活動費	カウンセリング、グループセラピー、ワークショップ開催経費など	2,125,714
	収入向上支援活動費	教材費、小規模ビジネス指導など	3,384,717
	マイクロクレジット活動	小規模融資の原資	863,272
	不法小型武器啓発事業費	セミナー開催経費など	1,015,942
	合計		17,820,276
	管理費	管理、運営のための人事費など	1,344,442
	食料安全保障支援活動	自給食糧を確保するための活動／食料物資購入費、種子購入費、農器具購入費、物資運搬費など	2,535,530
コンゴ事業	収入向上支援活動	収入源を確保するための活動／職業訓練講師謝礼、職業訓練材料費、小規模店建設資材購入費、資機材運搬費など	1,758,681
	心理社会支援活動	心理社会的な安定を促す活動／カウンセリング担当者人件費、スタッフ移動のための交通費など	882,866
	健康を維持するための活動費	BHN支援活動の経費など	647,951
	コンゴ東部南キブ州における緊急人道支援	生活を再建するための資金供与(小規模ビジネスの準備金)や、農作物の種子の供与など	1,221,574
	合計		8,391,044
ブルンジ事業	管理費	管理、運営のための人事費など	2,732,976
	元子ども兵及び紛争被害者自立支援センター住民参加型建設プロジェクト	センター住民参加型建設プロジェクト元子ども兵及び紛争被害者の自立支援を行うための施設建設費	763,399
	紛争被害者の能力開発を通したコミュニティリエジエンス向上プロジェクト	事前調査及び事業立案のための調査活動費	1,088,491
	合計		4,584,866
	管理費	管理、運営のための人事費など	4,554,520
カンボジア事業	地雷撤去活動費	地雷撤去団体MAGへ活動費の提供	495,380
	地雷回避教育活動	地雷の危険性を村人に知らせる際の交通費など	58,725
	収入向上支援活動	地雷被害者家族への自立支援、裁縫技術訓練費など	7,677,429
	村落開発基礎教育活動	口カバッス村での補修授業費など	364,290
	伝統音楽復興継承活動	事業のモニタリング調査費など	10,322
ラオス事業	カンボジア啓発事業費	カンボジア視察に関する交通費など	360,837
	教育支援活動	図書館の設置、校舎の補修など	3,164,229
	合計		16,685,732
	管理費	管理、運営のための人事費など	380,874
	不発弾撤去活動	英語版クラスター爆弾啓発漫画制作費、不発弾撤去活動の調査費など	510,472
ラオス事業	被災者支援活動	不発弾被害者の調査費など	307,912
	教育支援活動	学校建設の事前調査費など	177,554
	合計		1,376,812



## みなさまへのお知らせ

5年ぶりに公式ホームページを  
リニューアルしました。

私たちの活動内容を、より多くのみなさまに知っていただくため、ホームページを5年ぶりにリニューアルしました。テラ・ルネッサンスが取り組む課題や、その解決策（支援の方法、社会的インパクト、活動の本質的な価値など）について、活動現場の新しい情報をより早くお届けしてまいります。

また、みなさまに対して、これからも私たちの活動を応援していただけるように、しっかりとお願いをしたいと考えています。テラ・ルネッサンスは、そのために様々な支援の方法を提案している団体の一つです。そのひとつが、毎月の定額寄付ができる『ファンクラブ会員』です。毎月1000円から継続的にご寄付いただけると、安定的な活動資金につながり、結果、アジアやアフリカ、そして日本で、より質の高い支援活動を継続していくことが可能になります。まずは、下記のインターネット検索、電話、メール、ホームページからお問い合わせください。

みなさまからの温かいご支援や想いとともに、スタッフ一同で力を合わせ、これからも力強く活動を続けてまいります。

認定NPO法人テラ・ルネッサンスを、今後ともよろしくお願ひいたします。

認定NPO法人テラ・ルネッサンス 理事長 小川真吾

テラ・ルネッサンス 会員

検索



ひとり一人に未来をつくる力がある  
認定NPO法人 テラ・ルネッサンス

〒600-8191 京都府京都市下京区五条高倉角堀町21番地 jimukinoueda bldg. 403号室

TEL/FAX : 075-741-8786 E-mail : [contact@terra-r.jp](mailto:contact@terra-r.jp)

HP : [www.terra-r.jp](http://www.terra-r.jp) Facebook : [terra.ngo](https://www.facebook.com/terra.ngo) Twitter : [@terra\\_ngo](https://twitter.com/terra_ngo)